

議会だより へっつかい

第83号

2017年11月

産業祭の会場に「大地人」の太鼓が響き渡る

第3回 定例会が開催される 2

定例会の総括と平成29年度補正予算の概要

議案・意見書の一覧と採決結果、別海高等学校の寄宿舍施設について

町政のここが聞きたい 8

一般質問（西原、中村、外山、木嶋、今西、瀧川の6議員）

議会のうごき 15

議会報告会について、委員会の活動報告、議員研修の報告

シリーズ まちの宝物 地域の歴史とともに歩み繋がる太鼓の響き …20
中西別草原太鼓保存会 会長 丹羽 博文さん



北海道別海町議会

第3回定例会開催される

一般会計補正予算7790万円を承認

第3回定例会では、補正予算、工事請負契約、交通安全指導員設置条例の改正、決算審査特別委員会の設置などが行われました。

第3回定例会は、9月12日～15日の4

日間の会期で開かれました。

町長からの提出案件である、一般会計予算の補正7790万円を承認しました。新しい事業として、インフルエンザの予防接種に対し助成を行う「任意予防接種助成事業」が始まります。

生後6ヶ月から13歳未満の子どもは、自己負担500円で2回、13歳から15歳の中学生は、自己負担額1000円で1回の予防接種を受けることができます。

なお、別海病院は自己負担分のみを支払いで利用可能ですが、病院によっては一度全額を負担したのちに助成を受ける形となる場合があります。

さらに、今回の補正では、ふるさと応援寄附金として5000万円の予算収入が計上されています。これは、国から返礼品の指針が明示されたため、当町としても体制を強化し寄付金の増額を図るも

のです。

当町のふるさと納税は「ふるさとチョイス」というホームページから行うことが可能となり、クレジットカードでの支払いなどにも対応します。返礼品の内容なども工夫していくようです。

また、交通安全指導員設置条例の一部が改正され、指導員の定数が現行の90名以内から60名以内となりました。

これまで、指導員はいろいろなイベントに出役される機会も多くなか、実際は50名ほどの人数で活動されていた実態があり、地域の状況も踏まえ、今回、条例の一部改正となりました。

その他、平成28年度各会計決算認定については、各会計決算審査特別委員会の付託案件となり、特別委員会が平成29年9月12日付けで設置されました。7名の委員が任命され、今後、慎重な集中審議が行われる予定となっています。



一般車両管理経費

金額 331万円

交通空白地帯の解消に向け、新たな交通サービスを試験的に実施



新入学援助費

金額 小学校135万円

中学校 78万円

助成の増額と支給日を3月に変更



ふるさと応援制度推進事業

金額 2393万円

ふるさと納税の返礼品に加え関連業務を委託する費用

平成29年度 第2回補正予算概要

	補正額	予算総額
一般会計	7790万円	172億7290万円
介護保険特別会計	△1990万円	11億2040万円

支出の部（主な補正）

ふるさと応援制度推進事業	2393万円増額
振興奨励地区会館等整備事業	103万円増額
資源循環施設活用整備事業	246万円増額
一般車両管理経費	331万円増額
任意予防接種助成事業	550万円増額
酪農工場整備事業	1026万円増額
公的介護施設等基盤整備事業	850万円増額
起業家支援事業	475万円増額
町道維持補修事業	900万円増額
新入学援助費（小学校）	135万円増額
新入学援助費（中学校）	78万円増額
町民温水プール整備事業	1100万円増額
パイロットマラソン補助金	70万円増額

委員 委員長 副委員長 委員 委員 委員 委員 委員

沓澤 昌 廣 松 壽 孝 雄 佐 藤 初 雄 渡 邊 政 吉 中 村 忠 政 今 西 和 雄 小 椋 哲 也

12月の定例会で全議員に報告され、決算の認定について採決が行われます。

■ 決算委員の構成

平成28年度各会計決算
審査特別委員会

人権擁護委員の選任



山藤 史江 さん

山藤史江さん（西春別駅前）の推薦を承認しました（再任）。

任期は平成30年1月1日から平成32年12月31日までの3年間となります。

地域別の交通指導員の数と改正内容

班名	対象地域	地域人口	学校数	指導員数算定根拠			指導員数改正
				班員	学校	人口・地区	
別海班	別海・奥行	6,439	2	3	2	3	8
本別海班	本別海・走古丹	416	0	2	0	1	3
尾岱沼班	尾岱沼・床丹	1,738	2	3	2	1	6
中春別班	中春別・美原	1,245	2	3	2	1	6
豊原班	豊原	283	0	2	0	0	2
上春別班	上春別	834	2	2	2	0	4
大成・本別班	大成・本別	330	0	2	0	1	3
西春別班	西春別	795	2	2	2	0	4
西春別駅前班	西春別駅前	1,915	2	3	2	0	5
泉川班	泉川	320	0	2	0	0	2
中西別班	中西別	690	2	2	2	0	4
上風連班	上風連	418	2	2	2	0	4
小計		15,423	16	28	16	7	51
専任指導員	登校時見守り	—	—	—	—	—	9
合計							60

定数はこれまで90名以内から60名以内に改正されました。

人口減や実質的な指導員不足などが要因としてあげられています。

別海町交通安全指導員
設置条例の一部が改正

**別海高等学校寄宿舎
施設の設置について**

9月8日に全員協議会が開催され、教育委員会より別海高等学校寄宿舎施設について説明があり、先だつて営業を終了した「旧別海プラザホテル」を活用し、民設民営方式で運営していく方針が示されました。

■旧別海プラザホテル活用となった経過
7月に旧別海プラザホテルの所有者から別海高等学校の維持発展のため寄宿舎施設の開設に協力したいとの申し出がありました。

所有者からの申し出は、自らが開設し運営すること、施設を町に譲渡または貸付すること、どちらも可能であり、町としての考えを尊重するとの内容でした。

町は、公設公営の方向性も検討していましたが、予算的な負担が大きなものになるとの試算で、既存民間施設と民間活力を有効活用した民設民営方式が有効であると判断しました。

来々年4月の運営開始を目指し、施設の改修範囲や寄宿舎として必要となる設備の追加など、具体的な検討が始まりました。

今後は、高校生を預かる施設として、安心と信頼を得られる管理体制の構築に向けて、所有者および別海高等学校と十分な協議を重ね作業を進めていく予定です。

■管理運営についての検討事項

- ・管理人は生徒が学校に行っている時間以外は常駐し、施設の管理に加え生徒指導も実施
- ・別海高校の教員に定期訪問を依頼し生徒指導のサポートを行う



寄宿舎となる予定の旧別海プラザホテル

■寄宿舎施設の概要

定数	男子11名(1・2階) 女子8名(3階)
部屋	全室個室、バス・トイレ完備
セキュリティ	部屋および階段にカードキーロビーや廊下などに防犯カメラ
食事	食堂にて一同で食事 1日3食(土日祝日など除く)
その他	洗濯室は男女別 別海高校の教員による定期訪問 管理人による生徒指導

■町の支援にかかわる検討事項

- ・寄宿舎施設の利用者に対する助成を検討中
- ・施設の安定的な継続と運営を行うための運営補助を検討中

■利用者の選考について

- ・別海高等学校入学希望者が増えるよう、事業者および学校と協議しながら選考を実施する予定
- ・町外を含めた中学校へ寄宿舎施設の周知を進め利用者の確保を図る

なお、これらの内容は検討中のものであるため、今後変更となる可能性があることをご了承ください。

議会傍聴インタビュー

一般質問の傍聴に訪れた方にお話を伺いました。
【お話を伺った方々】 商工会女性部の皆さん



広報…傍聴された感想は？

高玉…議会傍聴は何回もしていますが、インタビューは初めてです。
内容は解りやすく、勉強になります。
質問に対する答弁を聞いて、自分もその答弁に対して質問をしたいと思ったりしました。
その場では答えられないこともあるのですが、もう少し詳しい答弁があってもいいのではと思いました。



穴戸清子さん 鈴木麗子さん 高玉淳子さん 戸澤志津子さん

戸澤…郊楽苑の問題が出ていました。
地元の人でも郊楽苑に行ったことが無かったり、どこにあるのか知らない人がいます。
もっと利用者が増えればいいと思います。

広報…議会だよりを読みやすくするため、レイアウトを大きく変え、段組みを6段から3段にしました。感想はありますか。

鈴木…以前、議会だよりの改善について提案したことがあります。
継続的にさまざまな改善がなされ、とても読みやすく、興味を持って読めるようになってきていると思います。

広報…当町もあと2年ほどで、町政50周年になります。大きな節目であり、歴史の流れなどを考えながら、誌面作りに取り組んでいきたいと思っています。
さまざまな情報がありましたら是非お寄せください。

意見書

◆道路の整備に関する意見書

(全会一致で可決)

提出者 産業建設常任委員長 沓澤 昌廣 議員
高規格幹線道路から市町村道にいたる道路網の計画的、体系的な道路整備の充実強化を図るよう強く要望する。

◆安全・安心の医療・介護の実現と労働環境の改善に関する意見書

(全会一致で可決)

提出者 福祉医療常任委員長 戸田 憲悦 議員
医療介護提供体制の改善を図り、国民が安全・安心の医療を受けることができ、社会を実現するよう強く要望する。

◆地方財政の充実・強化を求める意見書

(全会一致で可決)

提出者 佐藤 初雄 議員(他4名)
政府予算と地方財政の検討は、歳入歳出を的確に見積もり、人的サービスとしての社会保障予算の充実と、地方財政の確立を目指すことを強く求める。

◆核兵器禁止条約に調印し、条約実現に真剣に努力するよう求める意見書
(賛成2名、反対13名で否決)

提出者 中村 忠士 議員(他1名)

被爆国である我が国は、本年7月に国連で採択された核兵器禁止条約に、調印し批准することが、国際社会から求められている。

日本政府が一刻も早く条約に調印することを求める。

反対

松壽 孝雄 議員

この条約のように、核兵器保有国の参加がないのでは実効性を持たない。

これまでと同様に、継続して核兵器廃絶決議案を提出し続け、核兵器不拡散条約を確立し核兵器を極限まで減らす努力をすることが、日本政府が取るべき道である。不十分な核兵器禁止条約は、核のない世界への近道には決してならないため、本意見書に反対する。

賛成

瀧川 榮子 議員

別海町議会は昭和56年に「非核三原則の堅持に関する意見書」を可決、平成7年には「平和の町宣言」も行っている。

また、平成21年には「平和首長会議」にも加盟し、国外の数多くの都市や、国

内90%以上の自治体とともに核兵器廃絶への意思を表明した。再び戦争の惨禍が起らないように、核兵器廃絶への強い願いを込めて本意見書に賛成する。

◆EUとの経済連携協定に関する万全の対策とその確実な実行を求める意見書
(全会一致で可決)

提出者 西原 浩 議員(他4名)

EPAの大枠合意を踏まえ、農林漁業者への不安と懸念の解消と、国民への十分な情報提供と丁寧な説明を行い、農林水産業が再生産可能となるよう、国の責任による万全の対策と確実な実行を強く要望する。

◆道教委「新たな高校教育に関する指針」を抜本的に見直し、すべての子どもにゆたかな学びを保障する教育を求める意見書(全会一致で可決)

提出者 総務文教常任委員長 小林 敏之 議員

地域に高校を存続させ、希望する子どもに豊かな後期中等教育を保障するため、地域の経済産業、文化の活性化を展望した新たな「高校配置計画」「高校教育制度」を創り出していくことを強く求める。

工事請負契約の締結および財産の取得

種別	内 容	契約金額	事 業 者	備 考
工事	町道根室中部3号幹線交付金工事(改良)	93,960千円	寺井建設株式会社	平成29年7月27日から平成29年12月28日
工事	上西春別中学校講堂防音改築建築主体工事	492,480千円	島影・みどり 経常建設共同企業体	平成29年7月27日から平成30年9月28日
工事	上西春別中学校講堂防音改築機械設備工事	55,080千円	株式会社高橋工業	平成29年7月27日から平成30年9月28日
工事	(H28線) 東富岡地区農道改良工事	52,704千円	寺井建設株式会社	平成29年9月20日から平成30年1月30日
工事	町道中西別上風連線中之川橋外4橋梁補修工事	54,216千円	山下建設株式会社	平成29年9月20日から平成30年2月20日
財産	除雪専用トラック	47,466千円	UDトラックス道東株式会社	サイドウィング装置付き
財産	小型動力ポンプ付水槽車(一部仕様変更)	32,378千円	株式会社北海道モリタ	変更前: 32,572千円
財産	小型動力ポンプ付水槽車(一部仕様変更)	32,400千円	株式会社北海道モリタ	変更前: 32,594千円

定例会の議案審議と内容

討論が行われた議案の採決結果	小 原 哲 也	外 山 浩 司	大 内 省 吾	木 嶋 悦 寛	松 壽 孝 雄	森 本 一 夫	今 西 和 雄	西 原 浩	沓 澤 昌 廣	小 林 敏 之	瀧 川 榮 子	戸 田 憲 悦	中 村 忠 士	渡 邊 政 吉	佐 藤 初 雄	松 原 政 勝	採 決 結 果
核兵器禁止条約に調印し、条約実現に真剣に努力 するよう求める意見書	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●	※	否

○原案賛成 ●原案反対 ※議長は可否同数の場合に決裁権があります

第3回臨時議会（7月25日）

議案番号	件名
議案第60号	工事請負契約の締結について（町道根室中部3号幹線交付金工事（改良））
議案第61号	工事請負契約の締結について（上西春別中学校講堂防音改築建築主体工事）
議案第62号	工事請負契約の締結について（上西春別中学校講堂防音改築機械設備工事）
議案第63号	財産の取得について（除雪専用トラック）
議案第64号	風蓮湖物揚場整備に伴う公有水面埋立について

第3回定例会（9月12日～15日）

議案番号	件名
議案第65号	平成29年度別海町一般会計補正予算（第2号）
議案第66号	平成29年度別海町介護保険特別会計補正予算（第1号）
議案第67号	別海町交通安全指導員設置条例の一部を改正する条例の制定について
議案第68号	別海町営住宅条例の一部を改正する条例の制定について
議案第69号	北海道町村議会議員公務災害補償等組合理約の変更について
議案第70号	北海道市町村総合事務組合理約の変更について
議案第71号	北海道市町村職員退職手当組合理約の変更について
議案第72号	工事請負契約の締結について（（H28線）東富岡地区農道改良工事）
議案第73号	工事請負契約の締結について（町道中西別上風連線中之川橋外4橋梁補修工事）
議案第74号	財産の取得の一部変更について（小型動力ポンプ付水槽車）
議案第75号	財産の取得の一部変更について（小型動力ポンプ付水槽車）
議案第76号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について
認定第1号	平成28年度別海町一般会計歳入歳出決算認定について
認定第2号	平成28年度別海町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
認定第3号	平成28年度別海町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第4号	平成28年度別海町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第5号	平成28年度別海町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
認定第6号	平成28年度別海町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
認定第7号	平成28年度町立別海病院事業会計決算認定について
認定第8号	平成28年度別海町水道事業会計決算認定について
報告第4号	放棄した債権の報告について
報告第5号	平成28年度決算に基づく別海町健全化判断比率及び資金不足比率について
発議第5号	E.Uとの経済連携協定に関する万全の対策とその確実な実行を求める意見書
発議第6号	核兵器禁止条約に調印し、条約実現に真剣に努力するよう求める意見書
発議第7号	地方財政の充実・強化を求める意見書
発委第1号	道路の整備に関する意見書
発委第2号	安全・安心の医療・介護の実現と労働環境の改善に関する意見書
発委第3号	道教委「新たな高校教育に関する指針」を抜本的に見直し、すべての子どもにゆたかな学びを保障する教育を求める意見書

以上、発議第6号を除き、全会一致で可決しました。

第3回定例会 一般質問

町政のここが聞きたい

第3回定例会では2日目（9月13日）に6議員が一般質問をしました。各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。（全文は町のホームページに掲載）

- 西原 浩 議員……………9
 - 1 町内の難防除雑草の対策状況は
 - 2 滞在型観光をふやすための課題は
- 中村 忠士 議員……………10
 - 1 日米共同訓練の十分な情報提供はあったか
 - 2 「核ごみマップ」について
- 外山 浩司 議員……………11
 - 1 児童遊園地にある砂場の衛生管理と今後の対策は
- 木嶋 悦寛 議員……………12
 - 1 ふるさと交流館に対する町長の発言は他の事業者をないがしろにする考えだ
 - 2 景観を生かしたまちづくりを
- 今西 和雄 議員……………13
 - 1 別海高等学校の寄宿舎開設に向けての経緯は
- 瀧川 榮子 議員……………14
 - 1 今後の交通弱者への配慮について
 - 2 給付型奨学金拡大について

詳しい議事録は町のホームページに掲載します。

別海町議会

検索

一般質問とは、行政全般について議題とは関係なく議員主導で政策論議できる仕組み。質問内容は事前に通告する必要があり、定例会でのみ行える。持ち時間は一人60分となっている。



西原 浩議員

町内の難防除雑草の 対策状況は

登藤産業振興部長
豊富な土地資源を最大限に活用するため、
難防除雑草の対策に取り組む

質問 近年は、イネ科の難防除雑草「メドウフォックステイル」が増加し、別海町内でも広域的な広がりを

見せてきている。良質粗飼料生産のための町内の難防除雑草の対策状況は。

登藤産業振興部長 平成28年度の難防除雑草の対策状況は、別海、西春別、上春別、中春別の各地区において、110戸、約900ヘクタールの難防除雑草の駆除を実施している。

また、地域によっては、雑草防除の方法などを独自に研究し、実践している。

質問 その厄介な難防除雑草「メドウフォックステイル」が、道路の路肩やのり面に見受けられることから、草地への侵入が懸念される。

町道の路肩やのり面への「メドウフォックステイル」の混入状況、草刈りなどの

管理状況は。

宮越建設水道部長 道路の管理については、通行車両の安全確保を目的として、道路巡回などの維持作業を実施している。

町道はおおむね6月と8月の年2回草刈りを実施し、国道は8月中、道道については7月から8月中旬までに年1回実施する内容の報告を受けている。

曾根町長 今まで、道路ののり面、路肩における保全事業は、道路を守る、もしくは交通の安全をはかる、という観点から除草はしていたが、難防除雑草を駆除するという観点はほとんどなかった。雑草対策という新たな観点を取り入れていかなければならない、ということがわかった。

町道の維持管理はもちろん、国道や北海道が管理する道道などについても、今後、要請活動などを行っていく。

滞在型観光をふやすための課題は

質問 宿泊施設が減ってきた中で、滞在型観光をふやすための課題と今後の取り組みは。

登藤産業振興部長 当町の滞在型観光をふやすためには、観光客に喜ばれる観光メニューの開発や宿泊施設の充実などが必要である。

とりわけ、教育旅行誘致推進協議会や中標津空港利用促進期成会等と協力し、地元では気がつかない新たな観光資源の発見と開発に取り組んでいきたい。



地域の魅力を体験できる観光資源の開発が望まれる



中村忠士議員

日米共同訓練の
十分な情報提供はあったか

竹中総務部長
なかった

質問 日米共同訓練において「訓練計画の事前公表、十分な情報提供を要請した」と町長は報告しているが、人員規模・移動経路・撤収日時などについて情報はあったか。

竹中総務部長 通知や報告はなかった。

質問 今後、別海でもオスプレイ訓練が実施される可能性は大きい。沖縄県議会は、オスプレイの危険性を鑑み、撤去を求める意見書と抗議決議を可決した。沖縄で危険なものは、矢臼別でも危険だ。訓練は受け入れるべきではない。

曾根町長 事故発生状況は承知しているが、現段階においてオスプレイを受け入れないという姿勢を明示することは考えていない。

しかし、当町の基幹産業や町民生活に影響を与える恐れがあるような場合は、

訓練を実施しないよう求めていく。

質問 7月20日9時に訓練中の第十師団が戦車砲（空砲）を発射したが、演習通知がされていない射撃だった。過去何度も同様のことが発生しており、「再発防



矢臼別演習場で訓練する陸自155ミリ自走榴弾砲

止に努める」だけでは済まない問題だ。

竹中総務部長 事前通知のない射撃を実施しないよう強く申し入れを行った。原因は、実際に行う射撃の通告漏れであり、確認せずに実施してしまったとのことだ。

一度ならず繰り返されていることは大変遺憾なことである。通告の方法、連絡体制など、調整を内部で確実に実施するよう要請をしていく。

「核いぬマップ」について

質問 政府は高レベル放射性廃棄物の最終処分に適した地域を示した、いわゆる「核ゴミマップ」を公表した。当町のほぼ全域が「適した地域」に入る。

国民に安全な食料を届けることを誇りにしている当町に、放射性廃棄物を持ち込むことは町の基盤を揺るがすことになる。

曾根町長 道は「特定放射性廃棄物の持ち込みは慎重に対処すべきであり、受け入れがたいことを宣言する」と規定した条例を定めている。当町も同様の姿勢を堅持していく。



外山浩司議員

児童遊園地にある 砂場の衛生管理と今後の対策は

河嶋福祉部長

地域の声を聞きながら、

町内会と協議検討していく

質問 当町には、児童遊園地が10カ所あるが、遊具の点検状況は。

河嶋福祉部長 専門業者による点検を年1回、遊具点検研修を受けた職員による目視点検を月に1回行っている。

質問 草刈りやアリの巣駆除など環境整備の状況と課題は。

河嶋福祉部長 町内会へ協力を依頼し環境整備を行っている。整備にかかわるペンキや駆除剤、刈払い機の燃料代などの経費については、町が負担している。草刈りなど定期的な整備をしてもらっているが、利用状況などからアリの発生や草が伸びている箇所もある。今後も町内会の協力をいただき、環境整備に努めていく。

質問 砂場の衛生管理の状況と課題は。

河嶋福祉部長 砂場は、造形遊びや友達との協調性を学ぶ場となる遊具だが、衛生面で犬や猫のほか野生動物の侵入などによる課題があると認識している。

シートなどで覆う管理方法もあるが、砂場の撤去も視野に入れ、各町内会と協議検討していきたい。

質問 次期学習指導要領では、小学校で英語が教科として本格に導入される。英語の教員の力量を高めるための方策は。

伊藤教育長 昨年度、中央研修に小学校の教員1名を派遣し、研修のノウハウを学んできた。

今年度は、その教員が巡回指導教員となり、町内全小学校を訪問し、外国語指導手と連携しながら担任教員と授業や研修を実施している。

今後も、指定事業の活用や小中連携を通して、小学校教員の外国語の指導力向

上を引き続き図っていく。

質問 新しく道徳の評価が導入されたが、評価に向けた取り組み状況は。

伊藤教育長 子どもたちを学期などの一定期間で、多面的に見て、大きなまとまりを踏まえた評価をする。

他の児童生徒との比較ではなく、児童生徒がいかに成長したかを受けとめ、励ます個人内評価として記述式で行う。

各学校では、夏季休業や放課後などを使用し、来年度に向けて研修を行っている。

また、年4回の学校指導訪問の中で、当町の指導主幹、指導参事が同行し、各校の道徳科の実施に向けた進捗状況を把握・確認し、指導と助言を行っている。



異なる学年の子どもたちが遊ぶ砂場



木嶋悦寛議員

ふるさと交流館に対する町長の発言は
他の事業者をないがしろにする考えだ

町長 多様な考えの一部を述べたままで
ないがしろにする意図はない

質問 町長は、8月23日の第6回全員協議会において、ふるさと交流館に対し

「今後の利用状況によっては、収容人数の増や部屋の改修など、大規模な増改築も検討していかねばならない」と発言した。

設置条例に「観光を目的に」とはひとことも触れていないにもかかわらず、町内宿泊施設の減少を補完するための公費投入を示唆したことは、他に宿泊観光を担ってきた民間の宿泊事業者をないがしろにする考えではないか。

曾根町長 私の発言は、将来の展望として多様な考え方の一部を述べたものであり、決して他の宿泊事業者をないがしろにする意図があったわけではない。

新規参入の事業者も含めて、当町の新たな観光資源の発掘や既存施設の発展を考えていくことは当然のことであり、ふるさと交流館だけが担うものではないと考える。

質問 全員協議会での町長の発言は配慮に欠けていたのではないか。

曾根町長 誤解を受けるような発言であったということであれば、今後はしっかり理解していただけるよう説明したい。

質問 宿泊事業者が減っているのは確かだ。ふるさと交流館の役割について他の宿泊事業者と共通認識を持つために、丁寧な説明が必要ではないか。

曾根町長 もうすでに町内外の事業者から個別に意見を聞いている。今後多く多くの意見を聞きながら、方向性をしっかりと定めていきたい。

景観を生かしたまちづくりを

質問 私たちは、この町を誇りに思い、住み続けたいと思えるまちづくりに取り

組む必要がある。

景観をまちづくりに生かす手法があり、すでに中標津町において、取り組まれている。

わが町においても、協働の推進を図り、産業や観光の振興も期待できることから、町の総合計画の柱として取り組むべきと考えらるが。

竹中総務部長 当町の自然環境や特色

などを生かした个性的で美しい景観づくりを進めていくために、引き続き第7次総合計画においても、施策の大綱に位置づけを検討していく必要があると考える。



景観を生かしたまちづくりとは、歴史や文化、地理、経済、産業などすべてを含む考え方ではないだろうか



現在も通学支援の助成などさまざまな支援が行なわれている



今西和雄議員

別海高等学校の
寄宿舎開設に向けての経緯は

山田教育委員会次長
庁舎内に検討委員会を設置し
検討を進めている

質問 別海高校寄宿舎開設に向け、民間所有施設の活用を検討中との説明があったが経緯は。

山田教育委員会次長 別海高校普通科

3間口維持に向け、町長と別海高等学校

教育振興会が道教委に「普通科学級増に関する要請」を行ってきた。

その中で町の支援策のひとつに寄宿舎の検討を明記している。

それを受け、父母へのアンケート調査をはじめ、寄宿舎施設の視察、庁舎内検討委員会の設置などの取り組みを行った。

本年7月に民間のホテル所有者より同ホテルを活用しての寄宿舎開設への協力の申し出があった。

来年4月開設に向け、民間活力を利用した民活民営の方向で所有者と具体的な協議を進めている。

行政としては、入寮者の保護者への助成、施設の継続的な運営が必要なことから、状況により運営者への助成も視野に入れ検討している。

質問 協働のまちづくりや民間活力の活用に行政の果たす役割は。



わが町の繁栄に向け協働のまちづくりがかかせない

曾根町長 第6次総合計画において、

町民、地域、さらには事業者が取り組むことを指針と定め、協働で推進してきた。第7次計画においても同様に進めていく。

民間の資金、経営ノウハウ・技術能力など活用し、施設建設、維持管理・運営など先進的な事例を参考にしながら民間活力の導入を進めていく。

協働のまちづくりに取り組むアイデアや事業の展開・運営など民間主体の考え方を大事にし、行政として役割を果たしていく。



瀧川 榮子議員

今後の交通弱者への配慮について

竹中総務部長

今年11月を目途に

試行運行の準備を進めている

で試行を進めていきたい。
最終的な制度設計は調整中で、取りまとめ段階にきている。

給付型奨学金拡大について

質問 国は給付型奨学金の制度を開始

することとしたが、その枠は狭く現実的には利用の難易度は高い。

当町に戻りたい若者を増やす工夫のひとつとして、今ある貸付型奨学金を給付型奨学金にするなどの要件緩和は意義があると考えるが。

山田教育委員会次長 町は、貸付型で

は特定の学校、大学を想定せず広く貸付を行なっている。

現在、給付型の制度の拡充を目的に、現行で定めている資格要件に加え、介護職にかかわる学校も本制度の対象とするよう検討を進めている。

貸付型を給付型にするということについては国の給付型奨学金が平成29年度から始まったばかりであり、その制度の運用状況、町内出身者のUターンに必要な就労の場、人材確保状況など総合的に判断し検討することとする。

質問 高齢者や障がい者を対象に、交通手段に関するアンケート調査を実施した。その目的と、結果を今後の施策にどのように役立てる予定か。

竹中総務部長 交通課題実態把握のため実施した。

公共交通空白地に居住する高齢者・障がい者のうち、運転免許証のない方、通院や買い物移動に家族や地域内で支援を受けられない方の移動手段を検証するための基礎資料として当面活用する。

質問 今回の補正で予算が計上されたが、計画内容は。

竹中総務部長 公共交通空白地での試験運行を計画している。本年11月頃の試行開始を目指して準備を進めている。

質問 試行期間はどのようになるか。

竹中総務部長 公共交通空白地での試験運行を計画している。本年11月頃の試行開始を目指して準備を進めている。

質問 試行期間はどのようになるか。

竹中総務部長 つ町内全域に対して試行を行っていききたいと考えている。広報紙などで試行運行実施を公表し、登録制、予約制



今回の試験運行に使用される予定の車両

議会のうづき

別海町議会では、平成22年から、町民の皆さまに議会での審議の経過や結果をご説明するため、議会報告会を開催しています。

報告会の場を活かして、議会に対するご意見や、町政に対するご提言を直接つかがうことも大切な目的のひとつです。

昨年は議員を班編成して各地域持ち回りで開催しましたが、今年からは皆さまの声をより深くお聞きするため、議員全員がすべての会場におもむき報告会を行います。

また、例年、幅広い内容のご意見を多くいただくことから、全体の報告と質疑の後に、内容に応じた分会を行い、一つひとつの声をしっかりとお聴きできる体制を検討しています。

なお、議会報告会でいただいた貴重なご意見とご提言は、議会で要点を整理し、

議会だよりで幅広く周知します。

議会に関すること、行政に関することに区分し、各委員会での調査研究事項や議員の一般質問に反映させていただきます。

行政に関する内容については町長へ直接提言しています。

私たち議員も町民のひとりとして、町民の皆さまに寄りそい、本当に距離の近い議会報告会を目指していきたいと考えています。

町民の皆さまもぜひ、ご家族やご友人をお誘いあわせのうえ、お気軽に議会報告会に参加していただければ幸いです。

できるだけ発言しやすい雰囲気をつくるため、議員も服装や座席配置など配慮を検討しておりますのでよろしくお願ひします。

皆さんお誘い合わせのうえ
お気軽にお越しください。



別海町公認キャラクター
別海りょうしくん

11月16日(木)

19:00-21:00

西春別ふれあいセンター

11月17日(金)

15:00-17:00

尾岱沼地域センターきらくる

19:00-21:00

別海町交流館ぷらと

議会報告会

総務文教常任委員会

担当所管 総務部・教育委員会など

委員長 小林 敏之
副委員長 森本 一夫
委員 西原 浩
委員 松壽 孝雄
委員 小椋 哲也

8月25日に所管事務調査を実施しましたので概要を報告いたします。

ふるさと納税について

より寄付しやすい環境を作るため申し込み方法などが見直しを検討され、国内最大の斡旋サイト「ふるさとチョイス」を活用することが決まりました。また、クレジットカードでの支払いも可能として、より利便性の向上を図っていくようです。

今後、寄付者の増加を見込み、返礼品の送付などの業務を民間委託する予定とのことです。

新たな公共交通サービスについて

既存の公共交通機関を利用しにくい空白地域にお住いで、自家用車の利用も難しい方を対象とした、新しい公共交通サービスの提供について検討が進められてい

ます。

7月上旬にアンケート調査も実施し、最適なサービスの提供形態について調整作業を行なっています。年内には試験的なサービス提供も開始される予定です。

給食センターについて

著しい老朽化により建て替えが望まれている給食センターですが、今年度、基本設計および実施設計が行われ、来年度建設が開始され、平成31年度より新しい給食センターの稼働が開始される予定となっています。



子どもたちのより健やかな成長のためにも建て替えが望まれる

別海高等学校寄宿施設について

遠隔地からの通学困難な入学希望者を受け入れるため検討が進められてきた寄宿施設ですが、旧別海プラザホテルを活用した民設民営方式で調整が進められています。（詳細はP4を参照）

当委員会としても別海高等学校の生徒確保は地域の最重要課題のひとつであると考えているため、寄宿施設の適切な設置と運用がなされるよう、今後より具体的な協議を進めて行きます。

就学援助制度の改正について

経済的な理由により就学が困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対して行われている就学援助制度が改正されます。就学予定者に対する援助が可能となり、入学前に準備金を支給できることとなりました。

加えて新入学学用品の単価が改正され、小学校で4万600円、中学校で4万7400円と、ともに改正前から2万円程度の増額となっています。

平成29年度の対象者に対しても改正された単価との差額分をさかのぼって支給する予定です。

常任委員会の活動報告

福祉医療常任委員会

担当所管 福祉部・別海病院など

委員長	戸田 憲悦
副委員長	今西 和雄
委員	中村 忠士
委員	木嶋 悦寛
委員	大内 省吾

柏の実学園について

社会福祉法人「柏の実会」が運営する障がい者支援施設「柏の実学園」の平成28年度事業概要について所管事務調査を実施しました。



地域社会の中で大きな役割を担う柏の実学園

施設支援ライフサポートかしのみでは、職員25名で、生活介護利用が51名、入所

者が47名、短期入所が11名となっていました。

就労支援センターのワークス・オークは、職員19名で、一般就労者が6名、就労継続が19名となっています。

地域支援グループホームひまわり、こすもす、あかり、ひかりの4施設は、合わせて21名の利用者で、世話人が8名となります。

特別養護老人ホームについて

平成26年に町から柏の実会に運営の移管を行い、平成27年11月に現在の新施設への移転が行われました。

現在は、職員83名で施設の入所定員が90名で、年間の利用者数が3万1772名で利用率は96%となっています。短期入所者の定員は10名で、年間の利用者数が3053名で利用率は83%となります。

新施設は多床室型から個室ユニット型になっており、利用料が約2倍と高額に

なっていますが、町の助成があるため実質的な利用料は、軽減が適用される場合は1割増、適用外の場合は2割増となっています。

併設されているデイサービスセンターは、定員35名で1日平均の通所者数は24・8名、年間の延べ人数で、介護利用が4561名、介護予防通所2251名、閉じこもり予防880名で、事業全体で7692名の利用となっています。

国民健康保険料の改正による保険料の算定について

平成30年から始まる新しい仕組みの国民健康保険事業は、8月に道の運営方針が決定し、第3回目となる納付金の仮算定が行われる予定です。

10月中旬には国から通知される仮の基準により算定を行い、11月中旬に各市町村へ概算の納付金と標準保険料が示されます。

12月には国から確定の基準が示され、道は条例改正を行い、本算定の通知が行われます。

当町としてはその算定結果を受けて、3月もしくは6月の議会で町の条例を改正する予定となります。

産業建設常任委員会

担当所管 産業振興部・建設水道部など

委員長	杏澤 昌廣
副委員長	渡邊 政吉
委員	佐藤 初雄
委員	瀧川 榮子
委員	外山 浩司

7月24日の事務調査

平成27年度に畜産クラスター事業を活用し、フリーストール牛舎1棟と搾乳ロボット2台、バルククーラーなどを整備した、株式会社オークリファームを訪れました。

担い手地策の一環として実施されている畜産強化整備事業の事務調査を実施するための訪問となります。

佐藤崇徳代表からは、「規模拡大をはかり労働力の負担軽減と個体乳量や酪農収入の増を目指したい」と熱い思いを話してもらいました。

午後からは、商工観光課長から別海町ふるさと交流館について経過報告、保全計画、今後の予定などについて説明がありました。

町は、ふるさと交流館は別海市街で唯一の浴場であり、来町者の宿泊施設として貴重であり、このまま存続したいとの報告を行いました。



オークリファームの牛舎で使用されているエサ寄せロボット

また、今回は指定管理方式の運営を採用したいとの方針が示されました。

委員会では、昨年からの源泉に砂が混じることによる汲み上げポンプへの影響や、各部屋ごとヘトイレ・バスの設置を図ってはどうか、などの質疑応答がありました。

8月22日の事務調査

農業委員会から、4月からの新たに始まった農業委員会制度について説明がありました。農業委員は定員が27名と3名増員となり、新たに女性の委員も誕生しました。

商工観光課からは、別海町ふるさと交流館の指定管理に向けた今後のスケジュールについて説明がありました。

8月下旬から指定管理選定委員会を実施し、9月19日から10月18日までを公募を行い、10月19日から11月中旬まで外部委員も含めた指定管理選挙委員会を開催します。

12月の議会定例会で選定された指定管理先を議決し、1月から2月中旬の間に協定書の締結がなされ、3月の議会定例会において、予算の措置などが行われる予定と説明がありました。

委員会の翌日、8月23日に町長出席のもと開催される全員協議会にて、この案件について協議することを了承しました。その他では、産業連関表について説明を受けて委員会を閉じました。

街地活性化の 取り組みを視察

委員会アカデミー事業(7月3日)

富良野といえば一大観光地のイメージがありますが、それは郊外のエリアで、市街地は対照的に閑散としていました。

特に、市街地の中心にあった病院の建て替え移転は、中心地に広い空き地をもたらし、商店街の活気は失われ、商工経営者の高齢化や、後継者不足、地価の下落などと相まり、富良野の街は暗く沈んだ雰囲気漂ったそうです。

そんな街の状況に「これでいいのか？」



フランス語で市場を意味するマルシェは観光客で賑わっている

と立ち上がったのが、ふらのまちづくり委員会です。何とか市街地を復活させ子どもたちに誇れる街を残したいという思いをフラノマルシェという形で実現しています。

「まちづくりの素人オヤジ軍団がまちへの熱い思いと使命感だけを支えに組織を作り、官も巻き込んで必死で取り組んだ」と話されていました。

その根幹には、まちづくりに対する情熱「パッション」、想いを形にする企画「ミッション」、実際に行動に移す「アクション」の3つの「ション」がポイントになったそうです

わが町のまちづくりにも、大いに参考になるお話しでした。今後の議会活動にも生かしていきたいと思えます。

(今西議員・瀧川議員)

介護事業運営の 幸清会を視察

委員会アカデミー事業(7月5日)

胆振地方で20力所以上の介護事業所を運営している幸清会を視察しました。

特別養護老人ホーム・デイサービス・グループホームなどがあり、個人の状況や生活スタイルに合わせたケアの提供を



介護事業の民間運営についてレクチャーを受ける

重視していると説明がありました。

介護職員の確保や育成が重要な課題となっているとのことで、この点は、別海町との共通課題だと感じました。

高校生に介護への理解を深めてもらう機会を設けたり、大学からのインターンシップを受け入れるなどの取り組みを行っているそうです。

さらに、海外からのインターンシップ制度を利用し、外国人介護員の受け入れや、職員の教育にも力を入れている様子を伺うことができました。

今後の介護の在り方を考えるうえで、大きな学びになりました。(大内議員)

地域の歴史とともに歩み繋がる太鼓の響き

なかにし べつ そう げん たい こ ほ ぞん かい かいちよう に わ ひろ ふみ
中西別草原太鼓保存会 会長 丹羽 博文さん



中西別草原太鼓保存会は、昭和54年に創立されました。当時、地域の開基50周年を迎えるにあたり、「この地域に根付く活動を残したい」との思いから、青年たちが立ち上がりました。はじめは開基50周年での発表、という目標に向かって練習に励んだようです。昭和56年に「子ども草原太鼓」も活動が始まり、多くの地域の子どもたちによって、草原太鼓の響きが伝承されていきました。この取り組みが、地域の文化のひとつとして根付いていると実感しています。さらに、平成10年、子ども太鼓で経験を積んだ青年10名により、青年太鼓「野陣(やじん)」が結成されました。子どもたちへの指導はもとより、自らも地域や町のイベントなどで積極的に演奏を行い盛り上げていきました。「地域に根付く活動を残したい」との先輩たちの強い思いが、様々な形で今日も響き渡っています。さらに、平成24年に地域の女性たちによる「彩女(あやめ)」が結成されました。可愛い子ども草原太鼓、力強い打ち鳴らしの野陣に、華やかな彩女が加わり、現在へといたっています。小学生7名、中学生9名、高校生9名、野陣9名、彩女10名の総勢62名から打ち鳴らされる太鼓の響きが、町内各地の太鼓保存会と共鳴し、わが町別海のこれからの活力の源のひとつとなるよう活動していきます。

編集後記

今年、10月4日が仲秋の名月、いわゆる「お月見さん」でした。平安時代に中国から伝わり、江戸時代には収穫祭としての側面が生まれ、今日にいたっています。昨今は、つい忘れられがちな秋の行事ですが、子や孫に伝えていきたいですね。さて、別海町は昭和46年に町制施行されて、間もなく50年の節目を向かえます。この間、我が町は飛躍的な発展を遂げ、生産基盤と生活基盤が整ってきました。改めて先達者の労苦に感謝すると共に、積み上げてきた歴史と文化に目を向ける、またとない機会だと考えています。議会だよりの中でも、「まちの宝物」シリーズとして、芸能・スポーツ・産業・地域活動など、今日にいたる町の足跡を紹介し、次世代に繋げて行きます。今年も、白い使者の足音が近づいてきました。インフルエンザの予防など本格的な冬の訪れに備えてください。

(今西委員長)

うがい、手洗い、しっかり食べて、みんなで防ごうインフルエンザ